

稲門やまと

発行所 早稲田大学大和稲門会
 発行人 会長 宮崎 顕
 事務局長 小澤 重晴
 〒242-0007 大和市中心林間 2-16-35
 TEL・FAX 046-276-8841
 編集人 児浦義文、小澤重晴、村岡猛、加藤晴夫

早稲田大学大和稲門会会報第45号

会長挨拶

宮崎 顕 (S42 法学部卒)

☆☆☆ 大和稲門会の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか ☆☆☆



日頃より会員の皆様方には大和稲門会の活動に深いご理解とご支援を賜っておりますことに紙面をお借りし厚くお礼を申し上げます。

さて、今年度(令和3年度)も半年経過しましたが、前年度に引きつづいてコロナ禍に悩まされた半年でした。

2年前、私が会長をお引き受けいたしました時、三つ目標を掲げました。「会員の増強」、「稲門会活動の活性化」「早稲田の絆の強化」です。

振り返ってみますと、「会員の増強」は地区内の校友宅を訪問し大和稲門会の紹介と入会の促進を行っていく予定でしたが、準備作業段階においてコロナ禍で中断しています。「稲門会活動の活性化」につきましては、ハイキング、ゴルフ会は実施したものの、総会、新年会等の懇親会、バーベキュー大会等のイベント、各種の同好会活動も自粛を余儀なくされました。また、「早稲田の絆の強化」につきましては、箱根駅伝、早慶戦の応援、県支部大会、県内他稲門会等の活動参加も儘なりませんでしたが、「コロナ感染症に伴う早稲田大学困窮学生の支援寄付」については、多くの会員の協力を得ることができました。引き継いでのご協力をお願い致します。

上記の中で、「稲門やまと」の発行につきましては、各種イベント等が少ない中、多くの会員の協力を得て会報を発行することができ、また、ホームページの改訂作業につきましても2年の歳月を経て、今年度よりスタートいたしました。是非皆様にご覧いただき育てていただきたく宜しくお願い致します。

上記の中で、「稲門やまと」の発行につきましては、各種イベント等が少ない中、多くの会員の協力を得て会報を発行することができ、また、ホームページの改訂作業につきましても2年の歳月を経て、今年度よりスタートいたしました。是非皆様にご覧いただき育てていただきたく宜しくお願い致します。

コロナ感染症も緩やかではありますが沈静化に向かっております。当会といたしましても4月以降の下半期には前記三つの目標の具体化に向けて進めていく所存ですので、皆様方の一段のご協力をお願い申し上げます。

事務局便り

事務局

◇2021年10月～2022年3月に行われた行事・イベント(中止含む)

- R3. 10. 01 「稲門やまと第44号」発行
- R3. 10. 24 稲門祭(リモート開催、記念グッズ販売協力)
- R3. 10 月 新ホームページスタート
- R3. 11. 06 県支部大会(中止)
- R3. 11. 23 大和稲門会第28回定例総会(書面審査)
- R3. 11. 25 「秋のハイキング」(昭和記念公園、参加者8名)
- R3. 11. 30 「秋のゴルフコンペ」開催、大厚木CC(本コース、参加者8名)
- R4. 1. 2～3 箱根駅伝応援(沿道応援は中止、総合順位は13位)
- R4. 1. 22 横浜稲門会100周年記念式典出席
- R4. 2. 12 新春懇親会(中止)

◇今後の予定行事(2022.4月～9月)

- R4.4.01 「稲門やまと第45号」発行
 R4.5.19 「早慶懇親ゴルフコンペ」小田急藤沢CC
 R4.5月 「春のハイキング」開催(日程未定)
 R4.6月 懇親会(日程未定)
 R4.9月 「バーベキュー大会」(日程未定)

◇ホームページ

昨年10月より新ホームページの運用が開始されました。

新ホームページのURLは <https://yamato-tomonkai.com> です。

新ホームページの完成により、旧ホームページは2022年3月末をもって運用を停止しました。

旧ホームページのURL <http://waseda-yamato.com> は4月以降無効となります。

◇令和3年度(第28回)総会(書面表決)の結果

令和3年度総会は11月に書面表決の結果、全議案は可決致しました。

第一号議案 令和2年度事業報告 賛成29票 反対0票

第二号議案 令和2年度決算報告 賛成29票 反対0票

第三号議案 令和3年度事業計画案 賛成29票 反対0票

第四号議案 令和3年度予算案 賛成29票 反対0票

第五号議案 役員を選任について 賛成29票 反対0票

(各議案の内容については当会のホームページをご覧ください。)

(文責：小澤重晴)

早稲田大学関連の情報

1. 早稲田大学の近況(3/12の田中総長の代議員会講演より)

- ① 2021年のコロナ対応
 - ・4月から70%の目標で対面授業を開始
 - ・換気対策のため全教室の空調を更新
 - ・コロナ対策会議(過去2年間で95回開催)
 - ・全職員にPCR検査実施
 - ・学生、職員等3万人に対しワクチン接種実施(7/5～8/31)
- ② 2020～2021年にわたり早慶に対する学生人気に逆転がみられる。
 - ・早稲田、慶応ダブル合格者で早稲田を選択する学生が増加
 - ・早稲田の複数の学部で偏差値が慶應に逆転
- ③ 早慶の親睦と交流推進
 - ・早稲田(田中総長)と慶應(伊藤塾長)両トップの相互表敬訪問
 - ・早稲田・慶應学生による両大学図書館の共通利用
- ④ 早稲田の将来ビジョン(Waseda Vision 150 and Beyond)の推進
(詳細は早稲田大学HP参照ください)

2. 冬季オリンピックで早稲田勢活躍

先般の冬季北京オリンピックにおいては、東京2021オリンピック同様早稲田関係選手の活躍には感激しました。特に複合団体ラージヒルでは早稲田大学スキー部OBの4選手の活躍で日本チームは28年振りにメダルを獲得しました。また、このチームのエース渡部暁斗選手は日本チーム団の旗手を務めると共に、複合個人でも3大会連続のメダルを獲得する等レジェンドぶりを発揮しました。

また、パラリンピック大会においては早稲田大学スキー部OBで現役大学院生の村岡桃花選手が選手団長を務めると共に、競技においては金3個、銀1個のメダル4個を獲得するなど大活躍しました。

3. 大隈重信侯没後100年記念祭開催される

① 大隈侯が没後100年の記念式典が2022年1月10日大隈講堂で行われました。

第1部 「大隈と福澤の交流を読み解く—近代日本の政治と経済」

第2部 「Waseda Vision 150 and Beyond—2050年に向かう早稲田—」

(上記講演の様子は早稲田大学HPでご覧いただけます。)

② 「大隈重信100年アカデミア」で示された大隈重信の功績

大隈侯の生誕の地佐賀県においては、佐賀県主催、早稲田大学の協力のもと「大隈重信100年アカデミア」と題して、郷里が生んだ偉人大隈侯の偉業に関する各種行事が行われました。その中で「明治のイノベーターとしての大隈侯の功績並びに特筆すべき事項」の紹介がありましたので、ここに掲載させていただきます。(佐賀テレビ番組より)

1. 日本初の鉄道開通(1869年)に尽力。高輪築堤を築き海上に鉄道を敷設。
2. 統計院「現在の総務省統計局」の設立と初代院長就任
3. 日本初のメロン栽培 「自宅の庭で栽培、本種は「早稲田」と命名」
4. 米国野球チーム来日の際に、「日本初の始球式」を行う
5. 明治4年に通貨条例を制定し、通貨を「円」に統一、四進法を改め十進法を採用
6. 富岡製糸工場を計画、渋沢栄一を任命し設立指示
7. ジェンダーの先駆けで「世の中は男と女は相持ち」「男と女は車の両輪」と主張
8. 日本初の女子大学「日本女子大学」設立に尽力
9. わが国初の政党内閣による総理大臣に就任、77歳で2度目の総理大臣に就任

(文責：児浦義文)

秋のハイキングの報告

黄葉の昭和記念公園訪問(2021年11月25日)

2021年秋のハイキングは晩秋の国営昭和記念公園を訪問しました。当日は南武線登戸駅に集合し立川駅で下車。先ず立川の新名所「グリーンスプリングス」に立ち寄り。ここから昭和記念公園を眼下に正面に富士山を望む眺望に一同感激。次に、公園入口の「昭和天皇記念館」に入館、昭和を思い出させる写真やビデオを観賞した。

昭和記念公園は、戦前は立川飛行場で戦後米軍に接収されていたが、昭和天皇在位50周年を記念して造られた国営公園で花の名所として有名。春は桜、秋には花の丘一面にコスモス、キバナコスモスが咲き、11月には銀杏や紅葉が来園客を楽しませてくれる。

昭和記念公園入園後、公園内のカナルの両側は小麦色に輝く銀杏並木が続き当公園の見どころのひとつ。「ふれあい広場」にあるレストランで昼食後、公園内を巡回するパークトレインに乗り、公園内の景色を眺めながら日本庭園に向かう。

日本庭園は紅葉の名所で、中央には大きな池を配置、その中央に木橋が架かり、池の周囲には茶室が設置される等大名庭園風な風情を醸し出している。池の周りは見頃の紅葉に包まれ、皆さん素晴らしいを連発。

日本庭園を出て「かたらいのイチョウ並木」に向かう。ここは写真、テレビ放映等で知られる当公園のシンボリック存在、銀杏は大分散ってしまった感は否めないが、銀杏の絨毯も素晴らしかった。暫らく銀杏を観賞したり写真撮影の後、西立川駅から帰路に向かう。

皆さん初めての場所で広大な公園の秋の散策に、黄葉・紅葉を眺めることができ満足の様子だった。(記：幹事、児浦義文)

参加者 石川、水野、小澤、関根、佐竹、上原、武藤(上原さんの妹)
児浦 (以上8名)



会員からの投稿

私の提言「大和市のまちづくりと産業振興」

渡辺伸明 (S47 理工卒、S56 大学院卒)

大和市は「健康都市 やまと」を宣言しています。このこと自体は地域住民にとって重要な施策でありその効果もあると考えています。しかしながら、人口減少社会の進展により大和市の住民税歳入は減少に転じることは明らかです。また、歳入における法人市民税は、類似都市と比較すると住民一人当たりで、約半分という低い水準となっており、企業の流出、廃業数も高い水準となっています。一方、歳出面では、高齢化に伴い福祉関係の扶助費の大きな伸び率が継続します。

このような状況が推移すると、住民税の歳入に大きく依存する歳入減少、扶助費などの歳出拡大により財政制約も多くなって魅力あるまちづくりも行えなくなり、地域活力も停滞する悪循環に陥ります。

そのまちづくり面では、周辺市で魅力的な開発やプロジェクトが進展しています。例えば上瀬谷では、花博以後の土地利用としてテーマパーク開発構想があり、三菱地所が検討主体になることが報じられています。

海老名駅周辺では、ホテル、大規模商業、業務機能、大規模マンションなどが集積し、相対的に大和駅周辺よりも海老名駅周辺のポテンシャルが向上しています。

藤沢駅周辺では南口街区が再開発に向けて動き出しました。

相鉄線ゆめが丘駅周辺では大規模な土地区画整理事業が行われています。その一画を「センター地区」と位置づけ、区内最大級の約170店舗からなる大型集客施設が誕生することとなっています。

厚木市は、県内市の中でも、大和市と並んで中心市街地の建物更新が進んでいないと言われていました。このような状況を克服するために、本厚木駅近くに市役所や図書館、消防本部、国や県の行政機関などを集めた複合施設を整備する基本計画を策定しました。以上の計画実現により、厚木駅周辺の中心市街地も活性化し、建物更新も進み、固定資産税も増加することが期待されています。

大和市ではそのような夢のあるまちづくり計画は、ほとんど見られず、このままでは周辺との競合に負けて埋没してしまう可能性が高いと考えています。

そこで、大和市においても、まちづくりの進展が産業活性化につながり、産業活性化がまちづくりのポテンシャルを高める相乗効果に着目し、今後の都市政策、産業政策を進める必要があると考えています。そのためには、近隣市のまちづくりに大和市が取り残されない戦略、都市の生態系変化に対応する都市ビジョン、都心近接性を活かした都市ビジョンなどが求められます。

具体的な「まちづくり」の提案としては：

- ① まちづくりと産業活性化は表裏一体の認識共有
- ② 都市政策を公共施設整備から民間開発誘導へ切り替え
- ③ 駅前は、住居系土地利用だけでなく業務・商業系土地利用を誘導
- ④ 大規模開発などを起爆剤として、周辺開発
- ⑤ まちづくりにマーケティングの発想を取り入れる
- ⑥ 大規模誘客施設のポテンシャルを活用したまちづくり（シリウス等）
- ⑦ 市内空間を美的センスのあるものへ

次に産業面での提案としては：

- ① 市内企業の活性化支援（奨励金制度の拡充等）
- ② 市外企業の誘致支援策拡充
- ③ マーケティングによる民間主体開発誘導と業務機能等の集積
- ④ 創業・開業支援策の拡充
- ⑤ 大規模誘客施設のポテンシャル活用による商店街振興
- ⑥ 定住促進とシティプロモーションの積極展開

以上が私の考える大和市のまちづくり構想ですが、実現のための具体策作りが必要と強く考えています。

私と将棋とのかかわり

加藤晴夫 (S48 理工卒)

千葉県のとちぎの私の生家には、脚付きの古い将棋盤と駒がありました。普段この盤で本将棋が指されることを見ることは少なく、村人の寄合い時に、村人同士が指すのをたまに見る程度でした。私は5歳ごろから姉と従妹達と将棋の駒遊び(駒崩し、周り将棋、はさみ将棋等)をしていました。小学校に入り同学年の友人から初めて本将棋を習い、互いの家に行き来して将棋を指し、一方で将棋の入門書で独学するようになりました。



駒崩し

音をたてないように盤の外に駒を運ぶことができればその駒を獲得できる。

その後1960年代(中学校、高等学校)、1970年から2000年頃(大学、会社員)迄はその時々で濃淡はありますが将棋に親しんできました。その主な内容は次の通りです。

- ・NHK杯のテレビ放送、新聞の将棋欄を見る。
- ・将棋月刊誌(将棋世界又は近代将棋)、将棋週刊誌(週刊将棋)を見る。
- ・作家や棋士の書いた将棋を題材にした本を読む。
- ・街中の将棋道場へ行き対面の将棋を指す(鎌倉市大船、大和市、高槻市、仙台市)。

私が将棋を知った当時一番有名で人気のあった棋士は升田幸三九段でした。作家の五味康祐と風貌が似ていて、話術も巧みで、常に和服を着用して、定石にとらわれない「新手一生」を掲げて対局していました。晩年の1971年度名人戦で大山名人に対しアマチュア好みの奇襲戦法と見られていた石田流を連続採用して臨んだシリーズが特に印象に残っています(3対4で升田の惜敗)。後にこの戦法は升田式石田流と呼ばれています。

私の一番好きな棋士は谷川浩司九段でした。彼は中学生でプロデビューして名人位を21歳で初獲得し、以降通算5期獲得しています。棋風は終盤、他の棋士が思いつきにくい手順でたちまち敵の玉を寄せきることから「光速の寄せ」と呼ばれていました。後に日本将棋連盟会長を経て現在も現役棋士を続けています。

2000年代に入ってインターネット上でネットワーク対局により将棋を無料で指せるサイトを見つけ利用するようになりました。ユーザー名、棋力を自己申告して、他ユーザーと対戦し勝敗によりレーティングが上下して棋力が評価される仕組みであったが、長時間熱中しすぎて健康上問題を感じたので数年で利用を止めました。後に本システムには将棋ソフト指し、高段者の棋力過少申告を排除できない問題点があることを知りました。

2016年10月に将棋界5人目の中学生棋士藤井聡太四段が誕生しました。12月のデビュー戦から29連勝し、2022年2月時点で将棋の五つのタイトルを獲得して現在は藤井五冠と呼ばれています。最新AIソフトを駆使して、隙のない序盤・中盤・終盤研究と前述の谷川九段以上の終盤力で高い勝率を維持しています。私の近況は「観る将」に専念しパソコン、テレビ、スマホで藤井五冠の追っかけをしています。

陸上競技と私

小澤重晴 (S44 理工卒)

私が陸上競技を好きになったきっかけは、中1の体育の「走り高跳び」の授業で1m30cmを飛び、クラスで1番になったことです。跳べた時の爽快感や、仲間より高く飛べたことが嬉しくて、それ以来「走り高跳び」の虜になりました。中学校には陸上部がなかったので、学校の砂場や近隣の空き地を利用し自主練習しました。当時の跳び方は「正面跳び」が主流で、砂場があればどこでも練習できたのです。バーやスタンドは自作しました。中3になると自己流の練習でも1m65cmを飛べるようになりました。当時は「将来はオリンピックに出て日の丸を挙げるぞ」と「だいそれた夢」を抱いたものです。

高校は早稲田大学の付属高校、上石神井にある「早大学院」に入学し、早速「競走部」に入部しました。練習は、東伏見の大学競走部の陸上競技専用グラウンドで、大学競走部に交じって練習しました。当時の学院競走部は、毎年関東大会や全国大会に選手を送っている都内でも陸上強豪校の一つに数えられていました。そんなインターハイ(全国大会)経験を持つ学院競走部OBが大学競走部には何人か在籍していて、グラウンドでは私達後輩に声を掛けてくれたり、指導してくれたりと夢のような環境でした。

しかし、大志を抱いていた「走り高跳び」の記録は、高校になってからは余り伸ばせませんでした。そこで、代わって始めたのが「三段跳び」です。2年生になるとむしろ「三段跳び」が専門となり13m以上を飛べるようになりました。期待して迎えた3年生の東京都の競技会では、決勝に進めたにも拘わらず、予選時に痛めた足首の「ねん挫」のため、決勝では1回も跳べなかったことは悔しい思い出です。

高2からは、プレーイングマネージャーにもなりましたが、マネージャーの役割は、大会時の選手のエントリーや遠征先の宿舎の手配、春夏の合宿先の選定や練習場の確保、顧問の先生への報告などいろいろあり、先輩に教えてもらいながら貴重な経験となりました。

振り返ってみると、私が陸上競技を行っていた期間は中学、高校のたった6年間でした。しかし、陸上競技で培った体力と忍耐力が、その後私が取り組んだスキー、水泳、ゴルフなどの他のスポーツにも活かすことができました。また、マネージャーの経験は、組織の為に働くという意味で、その後の私の人生に役立っています。6年間の陸上競技は、今の私にとって懐かしい青春の思い出です。



学院競走部時代の一コマ
後列左から二人目が筆者

石川公弘氏の人気ブログ「台湾春秋」 をみんなで読もう

水野昂子 (S35 文学卒)

ブログに自分の意見などを日記のように綴り、感想や主張や写真を添えてブログにアップすることは、多様化の時代、これから、ますます盛んになるのではないだろうか。

私の所属する「演劇やまと塾」でも、塾生が交代で、日々の活動記録をブログに書いている。さかのぼれば結成当初から15年以上にもなり、最近では以前の勢いはなくなってきているが、とにかく続いている。

勢いのなくなった要因は、やまと塾のホームページができ、そこに、大部分の情報が載っており、また、「伝助(でんすけ)」を活用し、個人の稽古出欠情報がずっと蓄積され残る仕組みを利用していることによるとも考えている。

閑話休題

大和稲門会相談役の石川公弘氏のブログ「台湾春秋」(URLは文末参照)への意見アップの回数とその内容は、まったく驚異に値する。ブログとはく個人的な意見などを、日記に近い形式で公開することである。

氏は、日台交流を長年にわたり推進してこられた。戦没台湾少年慰霊碑建立をはじめ、節目の年には、台湾の方々を招き歓迎大会を開催し、また自身も日本からの賛同者を引率して台湾訪問を継続してこられた。

2019年(令和元年)5月には台湾高座会留日75周年歓迎大会を盛大に開催し、記録誌を発刊。日本を「第2の故郷」として心に刻む台湾少年工の歩みを神奈川の戦後の歴史に残した。

その間、現在に至るまで新聞雑誌などに取り上げられた、記事や論評を丹念に収集し、自身の論評を加えブログ「台湾春秋」に掲載し続けてこられている。パソコンのブログだけでなく、最近では、私のスマホにもこの記事が送られるようになった。

私がブログをチェックすると、ほぼ毎日その日のニュース解説を美しい写真、絵、資料の図入りで受け取ることができる。

一例をあげると

- 2月26日 ロシア軍ウクライナの首都に迫る。
- 3月 2日 ウクライナを念頭に米代表団が台湾訪問
- 3月 3日 戦争犯罪と大汚職で、名を残すプーチン 等々

政治記事の合間には、健康についての記事もある。

- 2月24日 脳の健康寿命を延ばす眠り方のコツ
- 2月25日 脳の健康寿命を延ばす食生活のポイント

等々である。私は、日々精読し知識を得ているし、学ぶことも多い。ブログの最後に拍手(👏)と意見の欄がある。私は拍手(👏)を必ずクリックする。

私は、石川氏が、日々、このブログを書き続けていられる、知力、気力、体力を持ち続けられることに大きな拍手(👏)を送りたい。体調にも心配がなく、掲載意見の可否について等、迷うことが全く見られない、氏の精神力に感服している。

この面白い、ブログを是非みんなで見たいものと思いここに紹介します。(最近スマホに届いた台湾春秋は、「プーチンは正気をとりにどせ」です。面白そうな見出しですね。)

(ブログ「台湾春秋」URL <http://kim123hiro.livedoor.blog>)

今思うとぞっとする、浅沼稻次郎氏の言葉

「米帝国主義は日中共同の敵である」 石川 公弘 (S32 商学卒)

大和稲門会の児浦幹事長から会報への投稿を依頼されました。たまたまこの春は早稲田大学へ入学してから70年の節目で、若かった頃を思い巡らしていましたら、ロシアのウクライナ侵攻と重なり、とんでもない事実が脳裏に浮かんできました。

当時、わが早稲田大学の先輩に浅沼稻次郎という日本社会党を代表する大物代議士がいて、雄弁会などが主催する講演会には気軽に来て熱弁を振るっていました。三宅島の貧乏農家の出で、苦勞して大学を卒業、代議士になっても粗末なアパート暮らしとか、私も親近感を抱いていました。

確か、私が大学院の修士課程を卒業する前後です。この浅沼先生、日本社会党の訪中使節団の団長としてまだ成立間もない中華人民共和国へ行き、ずいぶんと勇ましい発言をしたのです。1959年3月12日のことで、敗戦の日からまだ14年目。当時もだいぶ話題になりましたが、ここに問題部分を再録してみます。

「私ども日本社会党の第一次使節団が中国を訪問した2年前の1957年4月以来、世界の情勢には大きな変化が生じました。毛沢東先生はこれを、東風が西風を圧倒したと、適切な言葉で表現されています。これは中国のみでなく、世界の言葉となっています。

いま世界は、平和と民主主義を求める勢力が増大し、なかんずくアジア・アフリカにおける反植民

地・反帝国主義は、大きな高まりを見せています。帝国主義国家の植民地体制は、大きく崩れつつあるのです。

しかし、金門・馬祖問題で明らかなように、中国の一部である台湾にはアメリカの軍事基地があり、そして我が国の沖縄にもアメリカの軍事基地があります。またそれが、次第に大小の核兵器で固められているのです。

日中両国民は今、アジアにおける核の非武装を勝ちとり、外国の軍事基地の撤廃を闘いという共通の重大な課題を背負っています。

台湾は中国の一部であり、沖縄は日本の一部であります。それらが分離されているのはアメリカ帝国主義のためです。日中両国にとってアメリカ帝国主義は共通の敵であり、戦わねばならない相手なのです。(拍手)」

こうした考えを土台に、わが国ではその後、空前の反安保の戦いが展開されました。また東京都や神奈川県など多くの自治体に革新知事が誕生しました。それらは途中で挫折し、日本国民は「革新勢力」なるものの実態に目覚めましたが、もしあの時期に保守政権が崩壊していたら、日本はどうなっていたか。浅沼稻次郎氏が当時、「平和勢力」と言ったロシアや中国は今日、とてつもない「戦争勢力」「専制国家」になっています。ぞっとする事実です。

私の海外気まま旅行

瀧本幸男 (S39 理工卒)

私の出張を兼ねた海外旅行の中で思い出の残る訪問先であるイギリスの「バース史跡見物」と「大英博物館見学」記を掲載しました。

(1) バースの史跡見物

予定した打ち合わせの仕事が終わり、ロンドン行きの列車が古都バースに到着したのは、そろそろ日暮れに近い時刻でした。カレー訪問の際は途中下車できず残念でしたが、今度は時間的には余裕があるので途中下車して町を見学することにしました。バースとは bath すなわちお風呂(ローマ時代の共同風呂)のことです。

駅前の教会のようなビルのどこが入口か分からないような壁の、適当に小さな扉を押し開けると下り階段があり、広々としたプール(共同風呂)へ辿り着きました。25メートルプールくらいの大きさですが緑色に濁っていて深さはわかりません。ローマ時代には多分きれいな水が湛えられていたのでしょうね。プールの周囲は洗い場のような感じの通路になっており、水が常に流れていました。共同風呂を見て外へ



(左) ローマ時代の共同風呂



(右) 高級集合住宅/ザ・サーカス

イギリスの名所 バース(BATH)の街

出て町の中心部へ向かうと広い芝生と大きな円形のビルがあり、ザ・サーカスと呼ばれる高級アパートの建物がありました。ロンドンや各地へ行って仕事する人々の集合住宅だそうで、建物の前には十分に広い駐車スペースがあり、また青々とした芝生の広場では子供を連れの家族がボール蹴りを楽しんでいました。さてこれからはロンドンへ戻って、明日は大英博物館へ行くことにしようっと。

(2) 大英博物館見学(特にロゼッタストーン見学)

大方の博物館と同様に、この博物館も古代から現代までの歴史順に展示がされています。初めの方の展示室には昔からのミイラが何体も何体も丁寧に展示されていますが、私の狙いはそれではありません。なぜなら半世紀前の1965年に東京上野の博物館で黄金のマスク「ツタンカーメン展」が開かれ、私も大変に混雑する中で仮面とミイラを見に行ったのです。

今回の私の狙い目は「ロゼッタストーン」にありました。古代エジプトでは岩や土に象形文字や楔形文字、さらには神聖文字を掘り記録として残しました。これらの文字は長いこと読み解けませんでした。これらを読み解けたのはこの三種類の文字を使った同一内容の法律文書が同じ石に三段にわたって刻まれて発見され、それをフランス人のシャンポリオンが解読したからでした。高校の世界史の先生は教室でとても面白く話をされたのですが、実際の大きさはどの程度だったのか?私はずーっと永いこと疑問に思っていました。

今こそ実物を見てそれを理解できると期待しました。そこで博物館に入ると先ずどこに展示されているかを目録で調べ、途中の展示物は割愛して博物館の最後の展示コーナーへと進みました。石は最後に近い展示室にあり、実物を見て瞬時に納得できました。私にとっては正にパリのルーブル美術館でモナリザの絵の実物を見た時のような大収穫の気分でした。



ロゼッタストーン

「私のお薦めの場所、お店、本」紹介コーナ

大和市「つる舞の里歴史資料館」の紹介 児浦義文(S43 法学卒)



私の散歩コースである「桜の散歩道」の途中に「つる舞の里歴史資料館」がある。ここは大和市の北部地域（下鶴間村）の石器時代から、縄文時代、古代・中世、江戸時代の下鶴間村と下鶴間宿の様子、更に、昭和になってからの小田急江ノ島線開通や林間都市計画下



における人々の暮らしにまつわる土器や石器等の埋蔵物、イラスト、写真等が展示されており、地元の歴史を知ることができる。

また、定期的に1~2ヶ月の期間は企画展を開催していて、私が訪問した【1/15~3/21】は、「幕末・明治も輸出工芸品」と題して、大和市文化財保護審議会会長金子皓彦氏のコレクションが展示されていた。また、毎年2.3月は古民家のひな祭り展を開催、更に毎土曜日は「つる舞土曜講座」を開催している。

「桜の散歩道」は3月から4月にかけて種々の桜が咲き、特に八重桜は綺麗です。チューリップ、芝桜等の花壇も整備され私たちの目を楽しませてくれます。



散歩の途中、休憩を兼ねて「つる舞の里歴史資料館」を訪ねてみては如何ですか。近くに大和稲門会の総会で利用している「うかい亭」もあります。



私のお薦めのお店 賛助会員 演劇やまと塾顧問 佐竹育子

このところ、ウクライナ情勢から目が離せず、コロナ関連よりウクライナのニュースの方が大きく報道されています。しかしコロナもまだ終息しているわけではなく、私たちも依然コロナという目に見えないものに立ち向かって戦っています。

過去3年に渡り、コロナにより私たちの貴重な時間が奪われてしまった訳ですが、年齢を重ねた私には、その時間は何物にも代えがたく思います。真面目な日本人だからこそ、ここまでおとなしく秩序を保っているのではないのでしょうか。只々、何も行動を起こすことなく、ひたすらに巣籠をしていたように思いますね。しかし最近はフェーズが変わり、ウイズコロナでも少しづつ日常を取り戻せているように感ずるのは私だけでしょうか？

さあ、これからルンルンの春を迎えます。巣籠だけではなく、規律を守った上で、皆でランチにでもお出かけしてみましょー!!

ということで、私の”おすすめのお店”をご紹介します。



和英の玄関

「和英(わひで)」という

会席・懐石料理のこじんまりしたお店です。

場所は大和東2丁目交差点(大和駅より徒歩5分)、モスバーガー隣です。

{大和市大和東 3-1-20 ☎046-204-8122}

お味も素晴らしく美味しい。食ベログでチェックしても口コミで評価4.2でした。

おすすめは、ランチ3000円(プラス飲み物)。おしゃれに盛り付けされた料理が少しずつ運ばれてきて、大満足です。

成人男性(ムキムキの方)にはちょっと物足りなさはあるかもしれませんが、私たち女性にとっては最高のご馳走です。

夜もリーズナブルの値段で懐石料理が楽しめます。テーブル席

3卓、お部屋は6~8人席で予約した方が安心です。貸し切り(15名程度)も可能です。春です! さあ、皆でお出かけいたしましょ!

私のお薦めの本

瀧本幸男(S39理工卒)

書名 大黒屋光太夫 上下 吉村昭 (大和市図書館所蔵)

2,003年2月1日発行 毎日新聞社刊 上下各1500円

著者: 吉村昭 北海道生まれ。1927年 ~ 2006年没 79歳

吉村昭(よしむら あきら)は、日本文芸家協会理事、日本近代文学館理事、日本芸術院会員(1997年12月15日付発令)、2005年春に舌癌と宣告され、さらにPET検査により膵臓癌も発見され、2006年2月には膵臓全摘の手術を受けた。

ものがたり 江戸時代に多発した廻船の漂流を基に記した小説である。

伊勢の白子浜から江戸向けに出帆した船(神昌丸)は多分関東に入ったと思われる地点で暴風雨により、舵も帆柱さえも失いカムチャッカ半島沖の孤島アムチトカまで漂流してしまう。この間にも何人かの乗組員を失う。孤島の現地人を管理している僅かのロシア人がおり、本国ロシアへ一緒に行くことになった。海を渡りカムチャッカ半島を横切り、オホーツク海を渡って陸地にたどり着く。しかし日本人の帰国は許されず、ロシア人の日本語習得に従事させられた。

日本への帰国を望む光太夫らは帰国の要望書を出すか認められず。たまたま心の広い現地管理者キリロと出会いロシア皇帝宛に願書を提出する。しかしロシア皇帝

の返事は芳しくなく、キリロの提案で日本人はイルクーツクまで前進することとなる。ここで返事を待つが埒が明かず、結局皇帝に直接会いに行くこととした。この間、ロシアの厳寒により痛んだ左足の半分切除手術を行った船員もいた。日本へ帰れずに現地で死亡した場合には、ロシア正教徒に改宗していなければ人間の墓場に葬られず野ざらにされる。そのために改宗するものもあり、現地で日本帰国を希望する者は僅かに3人となってしまった。首都ペテルブルグではエカテリナ女帝に拝謁し、事情を説明しやっと帰国を許された。しかし、帰国に伴う困難は筆舌に尽くし難く、さらに多難な旅となった。

吉村昭の詳細な資料調査をもとに大変面白く読み切ることができた。一読を勧めます。

稲門やまと素人川柳 ②

前号で、初めての試みとして会員より素人川柳を募集しましたところ好評でしたので、今回も企画しました。応募作品の中から、編集委員会で選定させていただきました18句を掲載いたします。

テーマ：オリンピック

1	銀よりもとってみたい金メダル	遠藤 廣
2	金メダル努力の匂いが溢れてる	同上
3	堂々の銀メダルでも悔し顔	小澤重晴
4	カーリング弾かれる石つまされる	同上
5	でかしたぞ複合稲門四人衆	児浦義文
6	金三つすごいぞワセジョの桃花さん	同上
7	夏冬と世界をつなぐ五輪かな	関根 実
8	しのぎ削るオリンピックのアスリート	同上
9	空の上板一枚で技競う	瀧本幸男
10	ジャンプ台踏み切った後の風に乗る	同上
11	ドーピングロシアは子供を守るべき	菟場直一
12	金メダルほんとは首に掛けたげたい	同上
13	中国の雪質如何大ジャンプ	水野昂子
14	結弦飛ぶ求道のジャンプ涙みせ	同上
15	IOC男爵今日も金メニュー	村岡 猛
16	アスリートマスク付けたら同じ顔	同上
17	思い入れ人一倍の早稲田卒	渡辺申明
18	胸詰まるメダル逃した泣き笑い	同上

秋のゴルフコンペの報告

2021年秋のゴルフコンペは、11月30日(木)、大厚木CC、本コース(西→南)にて、参加者7名(ゲスト1名)のもと開催致しました。当日は、朝は多少寒かったものの、日中には晩秋とは思えないほど暖かくなり、セータ姿でゴルフを楽しむ事ができました。

プレー後は、レストランで表彰式を行いました。コロナ感染防止の観点から短時間のパーティーでしたが、参加者一同親睦を深めることができました。(記：幹事、小澤重晴)

<コンペの成績>

優勝 小澤 重晴 準優勝 真鍋 藤正 3位 南館 正士(ゲスト)
NP賞 橘川 泰一、南館 正士

会 計 便 り

会 計

会員の皆様には日頃より大和稲門会に対してご支援ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。また、コロナ禍が続き行事の多くが自粛を余儀なくされております中で会費を納入戴いておりますことを心苦しく思っております。

さて、今年度(2021年10月～2022年9月)の会費の納入状況は下記の通りとなっております。コロナ禍で総会、幹事会、その他の会合等で集金させていただく機会がありませんでしたので、今回同封の振込票にて入金いただきたくお願い致します。

・年会費は令和3年度分より5千円となっております。なお、お名前の頭部に●のある方は、過去余分に徴収しておりますので、3千円となります。

・銀行振込をご利用の方は下記口座に振込下さい。

横浜銀行中央林間支店 普通預金 口座番号 1155943 口座名義人 早稲田大学大和稲門会

・会費納入についてのお問い合わせ 会計担当 児浦義文までご連絡ください。

電話番号 090-9333-4479 メールアドレス koura0114@jcom.home.ne.jp

(1) 令和3年度分(今年度分)までの会費納入者

中 晃	岩本 武夫	大澤 善勝	加藤 啓一	加藤 裕之	國方 隆
●小坂 悟	小島 達之	児浦 義文	佐藤 洋子	柴田 哲也	清水美加子
菅谷正一郎	鈴木 信義	関根 実	高田 博	三重野省二郎	瀧本 幸男
●土橋 仁志	中丸 敬治	菟場 直一	古木 敏幸	渡辺 伸明	橘川 泰一
中西 剛	小澤 重晴	加藤 晴夫	杉山 充	田村 幸雄	杉山 光司

(2) 令和2年度分までの会費納入者

石川 公弘	遠藤三紀夫	遠藤 廣	●大澤 孝征	小林美佐子	佐藤 逸郎
保坂 保	町田 浩文	眞鍋 藤正	●水野 昂子	●宮崎 顕	●村岡 猛
遊佐 喜弘	横沢 和信	●池田健三郎	●小林 晃	田中 政弘	佐竹 育子
稲葉 紘					

以上(1)(2)計49名 他1名(匿名希望) 合計50名

(文責:児浦義文)

*****「編集後記」*****

この度、「稲門やまと第45号」を発行するはこびとなりました。当会の殆どの行事が中止を余儀なくされる中、皆様方の投稿のご協力ありがとうございました。

前号に続き「稲門やまと素人川柳」に加え、新たに「私のお薦めの場所、お店、本」紹介コーナーを設けました。これらの特集は今後も続けてまいりますので、次号以降も宜しくお願い致します。

1日も早くコロナ感染症が収束し、皆様方と再会できることを編集委員一同心待ち致しております。

(編集委員一同)